

時代	近世	遺跡	松江城下町遺跡（松江市）
----	----	----	--------------

江戸時代の城下町

～家老屋敷跡と武士の暮らし～

松江歴史館の建設に伴って、堀尾期の家老屋敷跡が発掘され、様々な遺物が出土しました。それらを見ると、当時の武士の家庭のくらしが見えてきます。

武士の屋敷跡

松江歴史館地下から、2つの屋敷地が見つかりました。絵図との比較から堀尾采女(4000石)と堀尾右近(500石)の屋敷と推定されます。礎石や土坑と呼ばれる穴がたくさん見つかるとともに、采女の屋敷跡からは、池、築山、茶室と思われる遺構が見つっています。



松江城下町遺跡



地下の穴の跡



茶道具

茶碗や茶入れ、建水といった茶を建てる道具や、茶会の中でふるまわれる懐石用の皿などが見つっています。産地としては、織部焼や京焼、志野焼、唐津焼などです。



書画

当時の武士にとって読み書きは重要な素養の一つでした。水滴や硯、関防印（作品の右肩に書き初めの印として、又は飾りとして押されるもの）が見つっています。



化粧道具

髪結い用の鬢油壺や化粧はけ、紅入れ、櫛、柄鏡、かんざしなど女性用の化粧道具が多く見つっています。



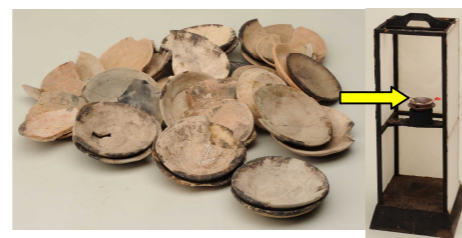
下駄

人々は下駄を履いて城下を歩いていたようで、多くの下駄が出土しています。四角い下駄は男性用。丸いのは女性用、小さいのは子ども用。大人用の長さは20～22cmのものが多かったです。



おもちゃ

独楽、羽子板、木とんぼ、鳩笛、木製の刀やなぎなた、ままごと道具、人形などが出土しています。



灯り

灯明皿に利用されたカワラケは、縁にタールが付いています。江戸時代の灯明油として菜種油や綿実油などがあります。庶民は、安価なイワシの油もさかんに使っていました。



食生活

飯碗は、江戸時代の初期に写真のような漆碗が使われていましたが、松平氏の治世になると磁器製の碗が使われるようになりました。食べ物の残りかすも出土していて、猪や鹿、スッポン、鯛、鱸、カモ、鶉、キジ、赤貝、シジミなどが見られます。



～武士のくらしを調べよう～

年 組 名 前

松江城の東側で、堀尾氏時代の家老屋敷跡が発掘されました。そこから出てきた物を見ると、江戸時代の武士の家庭のくらしが見えてきます。



松江城下町遺跡



地下の穴の跡



出土した遺物

屋敷跡からは、石の列や穴、大量の陶磁器や土器、木製品、金属製品が見つかりました。

challenge



① 左の写真のものは、現代でいうと何にあたるでしょう。右のイラストを合うものを線で結びましょう。



茶道具



けしよ道具



書道具



おもちゃ



調理道具



あか灯り



下駄

人々は下駄をはいて城下を歩いていたようです。四角い下駄は男性用。丸いのは女性用、小さいのは子ども用。大人用の長さは20～22cmのものが多かったです。



食生活

食べ物の残りかすも出土していて、イノシシやシカ、スッポン、タイ、スズキ、カモ、鶉、キジ、赤貝、シジミなどが見られます。

② 現代の道具と1番ちがっていると思う江戸時代の道具を選んで、どこがちがうか書きましょう。